



国際ロータリー第2600地区
上田六文銭ロータリークラブ
 Rokumonsen Rotary Club

2016-17年度
 国際ロータリー会長
 ジョン F. ジャーム

第2600地区ガバナー 原 拓男

【事務局】

〒386-0025 長野県上田市天神 4-24-1
 上田東急REIホテル 3F
 TEL 0268-25-6000 FAX 0268-25-6002
<http://www6.ueda.ne.jp/~ueda6rc/>
 《例会日》毎週火曜日 12:30~13:30
 《例会場》上田東急REIホテル 2F
 《創立》1997年2月18日

●会長 西澤 文登 ●幹事 松澤 一志 ●会報委員長 中澤 信敏 ●副委員長 鹿志村恭彦 ●委員 中沢利樹男/斉藤恵理子

例会日誌

司 会 中澤 信敏君
 開会点鐘 西澤 文登君
 斉 唱 「それこそロータリー」
 委員会報告



- ・ 20 周年記念事業実行委員会
 柄澤 堯君
 『講演会の日程と担当について』
 プログラム
- ・ 会員卓話 西澤 文登君

会長挨拶

強運を味方に付けた真田昌幸

西澤文登君



お天気が不安定です。暑くなったり寒かったりで、体が忙しいですね。いよいよ20周年記念講演会の日が迫って来ました。みんなが健康で、有終の美が飾れるよう

がんばりましょう。

今日は私の卓話ということで、後ほども

う一度演壇に立たせていただきますが、当初予定していました真田と上田城下町というテーマを変更して、「上田の大正時代」をテーマに話させていただきます。今日の上田は、沢山の人達の汗と涙、沢山の行動、業績の上に成り立っています。上田は城下町であり、真田昌幸が城下町の基礎をつくりました。その後も時代の変遷と共に数々の人がそれぞれの立場で関係し、活動し、その結果上田の風土が形成され、上田人とも言うべき持ち味がある住民性が作られてきました。その中で、大正時代の上田の人達が今日の上田の形成に大きく寄与していると思うのです。これは卓話で私の考えるところを述べたいと思います。

城下町上田の外形を設計したのは真田昌幸です。真田昌幸という武将はとても強い武将でした。また頭もよく、先の読める武将でした。それともう一つ、実に運のよい人だったと思います。相手方の都合で3度も窮地を脱しています。1度目は昌幸が徳川家康の支援を受けてこの地に城を築き始めた天正11年(1583年)です。対する上杉景勝の勢力は隣の坂城まで及んでいました。景勝は築城を阻止しようと大軍を虚空蔵山に集結させました。いざ攻撃にかかろうとした時に麻績に反乱が起こり、急遽その大軍を麻績に向けたのです。上杉の大軍と真田昌幸軍が激突していたら築城はおろか真田本体がどうなっていたかわかりません。

2 度目はご存知天正 13 年 (1585 年)、第 1 次上田合戦の時です。確かに緒戦は昌幸の智略により真田軍が大勝利を収めますが、これで徳川の大軍は撤退したわけではありません。八重原の地で陣を立て直し、真田軍と小競り合いを繰り返しながら援軍を待っていたのです。徳川家康は実際援軍を約束しています。ところが、どういうわけか徳川軍は突然陣を引き払い撤退してしまっただけです。家康の側近中の側近、石川数正が豊臣秀吉方に寝返ったからだと言われています。近年それだけが原因ではないという説が出て来ましたが、いずれにしても家康はこの時、真田への攻撃を中止したわけでは

3 度目は第 2 次上田合戦、慶長 5 年 (1600 年) です。徳川秀忠は 3 万 8 千人といわれる徳川譜代の武將軍団を率いて真田退治にやって来ました。俗に上方に行く途中、旅の駄賃に、煮え湯を飲まされている真田をたたいておこうと上田に攻めて来たのだと言われてはいますが、実際は上田を責めるのが初めからの計画だったということが近年わかって来ました。この時も徳川軍は昌幸の策謀で、小競り合いはあったものの本格的な攻撃にかかれないうでいました。そうこうしている内に上方の情勢が風雲急を告げてきてしまい、家康は秀忠に「上田攻めを止めて、そのまま上方に急行せよ」という指令を出します。秀忠軍は関ヶ原には間に合いませんでしたが、ご存知の通り東軍が勝利しました。ですが、西軍に味方した昌幸の上田は大きな戦禍にさらされないで済みました。いかに真田昌幸が智将で真田軍が勇猛であろうとも、わずか 2,500 人と言われる軍勢では 3 万 8 千人の本格攻撃には耐えきれなかったのではないのでしょうか。

関ヶ原以後昌幸は信繁 (幸村) と共に高野山に追放され、慶長 16 年 (1611 年) 九度山でその生涯を閉じますが、その名を天下に残しました。真田ファンには叱られるかも知れませんが、真田昌幸は強運を味方に付けた武将だったと私は思います。運も強さの大切な要素なのです。

幹事報告



松澤 一志君

- 1. 桐生赤城 RC 様より
・ 式典出席の御礼

恵送

- 1. 東御 RC 様・・・会報

全会員配布物

- 1. 当クラブ会報 第 941 号

出席・ニコニコBOX報告



生川 秀樹君

	ベース	欠席	メイク	出席率
本日	19	5	-	73.68%
前々回	21	3	0	85.71%

西澤文登君 いよいよ 20 周年記念事業の講演会の日が迫って来ました。有終の美を飾りましょう！

大久保昌宏君 記念講演会ぜひ良いものにして参りましょう。よろしくお願ひいたします。

中沢利樹男君 山極先生の講演会、準備しっかりしましょう。

松澤一志君 西澤会長、本日はよろしくお願ひします。

水野泰雄君 会長、今日はよろしくお願ひします。

宮澤広一君 西澤会長の卓話楽しみです。残りわずかですね！

- 肥田野秀知君 笠原 一洋君
- 北村 久文君 中澤 信敏君
- 生川 秀樹君 齊藤恵理子君

プログラム

会員卓話 西澤 文登君

上田の大正ロマン

近代の上田にとって大正時代は非常に大切な時期でした。全国的にも大正デモクラシーと呼ばれるように新しい考えが庶民の中に入り、一般大衆が政治体制や社会体制を動かすまでになりました。大正期はわずか 14 年間ですが、上田はその短い期間に水道、鉄道、道路などの建設が進み、近代的な都市に変貌を遂げて行きました。上田町から上田市になりましたし、繭、生糸も高く売れ、産業・経済の発展を背景に、優れた教育、文化、芸術の発祥の地にもなりました。山本 鼎が提唱した児童自由画教育運動、併せて始められた農民美術、金井 正、山越脩蔵等が始めた上田自由大学など、大正時代に創始された教育・文化の精神は現在も市民の中に脈々と生きています。

この時代に建設された大正ロマンあふれる建物が市内の随所に見られます。主な建造物を紹介してみたいと思います。ご存知「みすず飴」の飯島商店の店舗です。



大正 13 年建造。木造 3 階建て、壁面に碎石を塗り、目地を付けているので石張りに見えます。エントランスの三角は現社長の母校・京都大学楽友会館を模したそうです。2 度の道路拡幅に際しても建物全体を浮かせて移動させる曳き家を行って原形を崩さない工夫がなされました。縦長の窓に雰囲気を感じます。

鷹匠町から南に 100m ほど入った所にある



伊藤家の母屋です。普通の住居より階高を高くし、スマートな特徴ある建物ですが、これはシアトル在住の経験を持つ現当主のお祖母様の設計だそうです。造作は秋田杉の丸材を 1 年間水につけたものや、階段の手すりの曲線を出すために一山買って適材を見つけるなどのご苦労があったということです。大正 12 年建造です。家の前の小道に見事な亀甲積みの石垣を見ることが出来ます。



松高眼科医院大正館(大正 4 年)

常田の毘沙門堂の東奥にあります。現在玉木氏のお住まいですが、10 年ほど前まで草間歯科医院になっていました。そもそも大正 12 年に当時内科医をされていた長峰時次郎氏が建てられました。外壁はイギリス下見板張りというのだそうです。1 階と 2 階の間のパネルに特徴がありますが、スタッコ仕上げというのだそうです。



旧上田蚕都館(大正 8 年頃)

上田商工会議所向かいの上田新参町教会です。礼拝堂は大正元年、カナダ・メソジスト教会によって連歌町に建てられ、昭和 10 年に現在地に移されました。その際礼拝堂は解体移築され、尖塔は新しく造られたとのこと。尖塔アーチの縦窓が何とも言えない軽快さで、思わず楽しくなります。



上田蚕種株式会社 (大正 6 年)



信大繊維学部守衛所(大正年間)